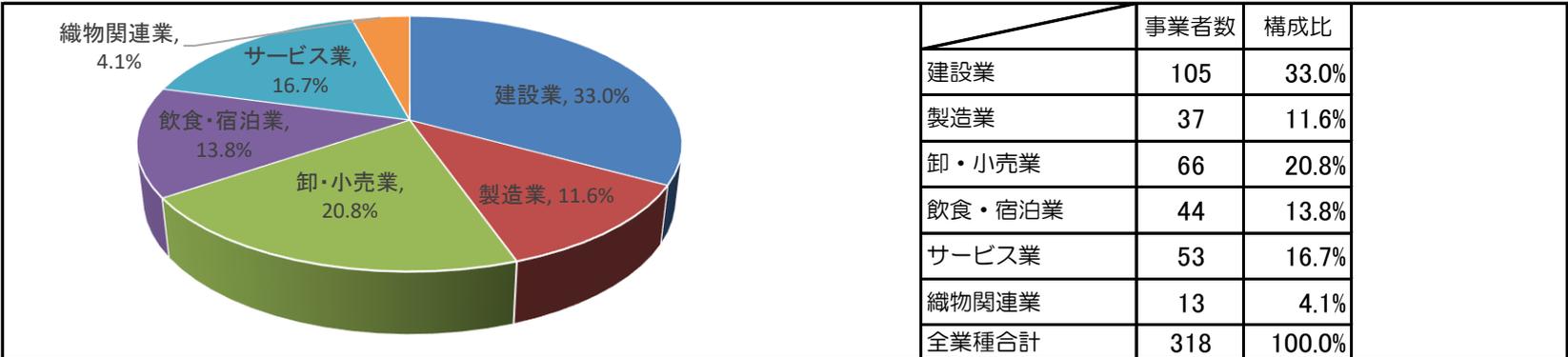


十日町市地域 企業景況調査 第1四半期報告書 (R7.4.1~R7.6.30) 会議所地区

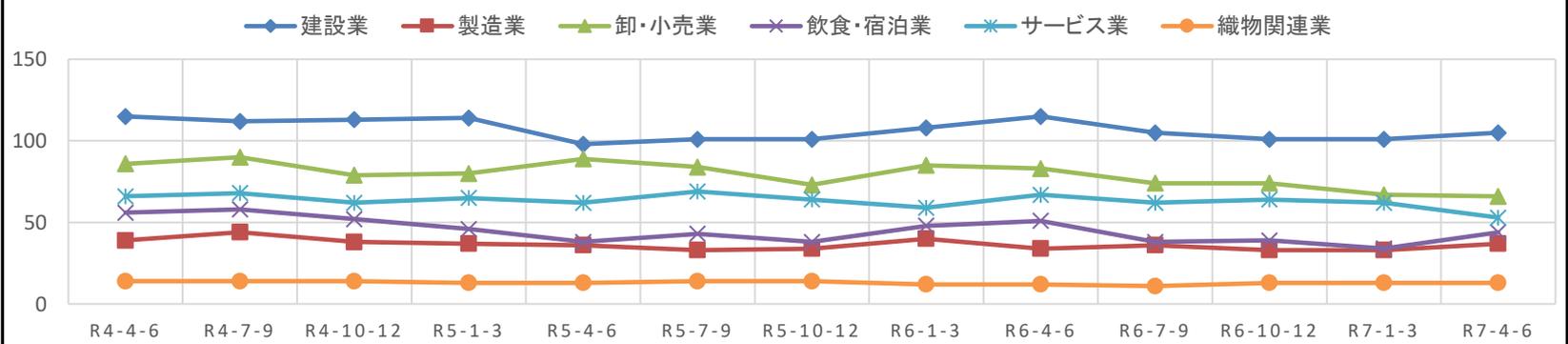
小規模事業者以外含む全事業所

◇ 調査対象事業所構成割合

<十日町市内全体>

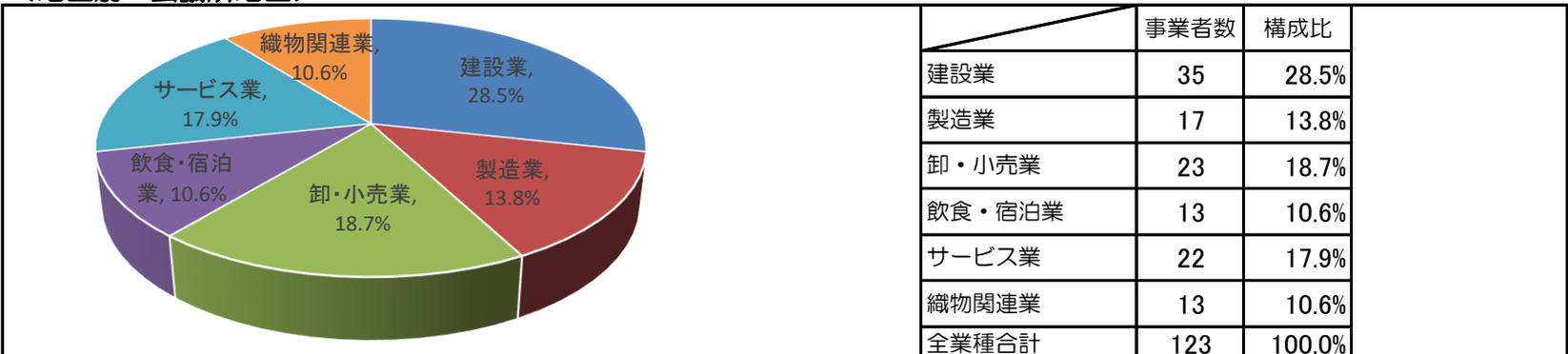


業種別調査事業所数の推移(市内全体)

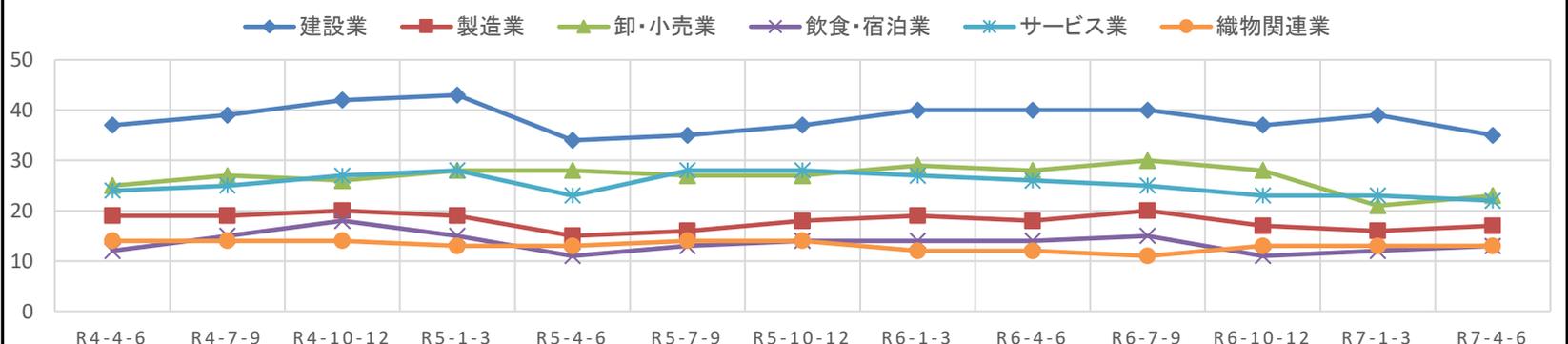


<コメント> 今回の調査は十日町市内318事業所から回答を得られた。前回よりも44事業者減少し、全業種について回答数が減少した。

<地区別：会議所地区>



業種別調査事業所数の推移(地区)



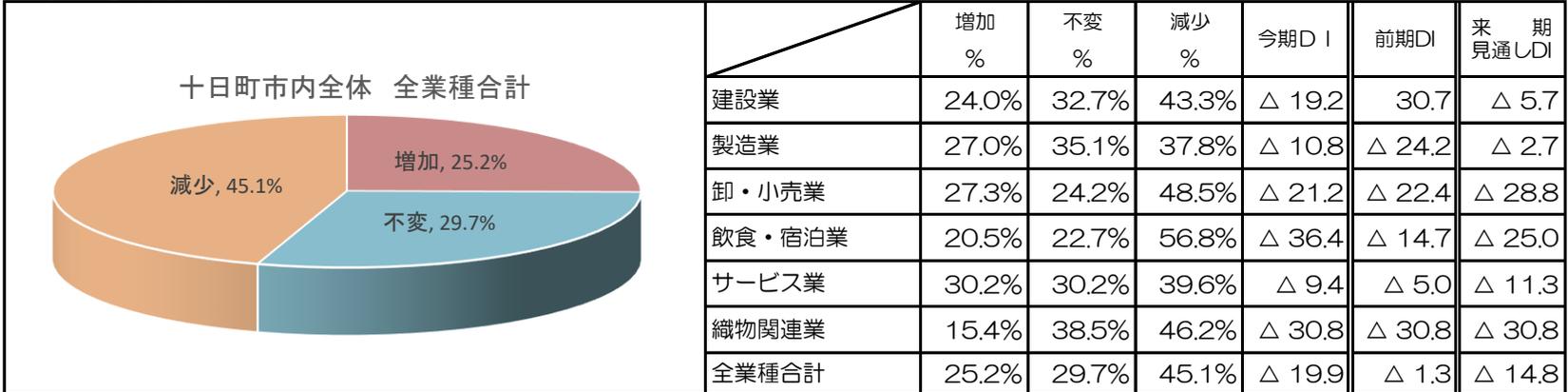
<コメント> 会議所地区の今回の調査回答状況は依頼先186事業所のうち123事業所から回答を得られ、回答率は66.1%と前回に比べ0.6%減少した(前回回答事業者124事業所、回答率66.7%)

DI値（景況判断指数）＝（増加・好転などの回答割合）－（減少・悪化などの回答割合）

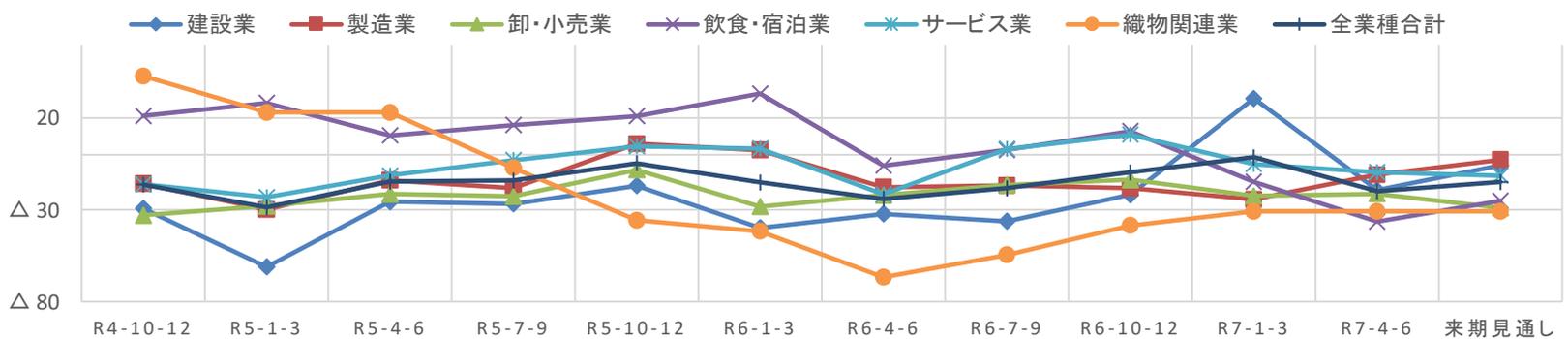
1. 売上について

- ・4月～6月の売上は前年の同期に比べてどうですか？

<十日町市内全体>

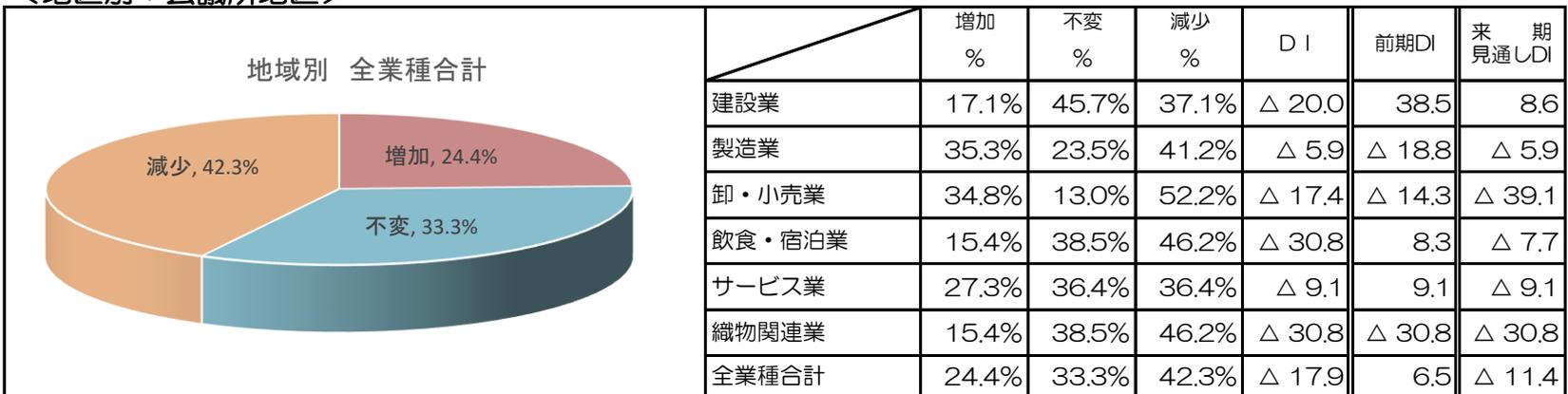


業種別売上の推移（市内全体）

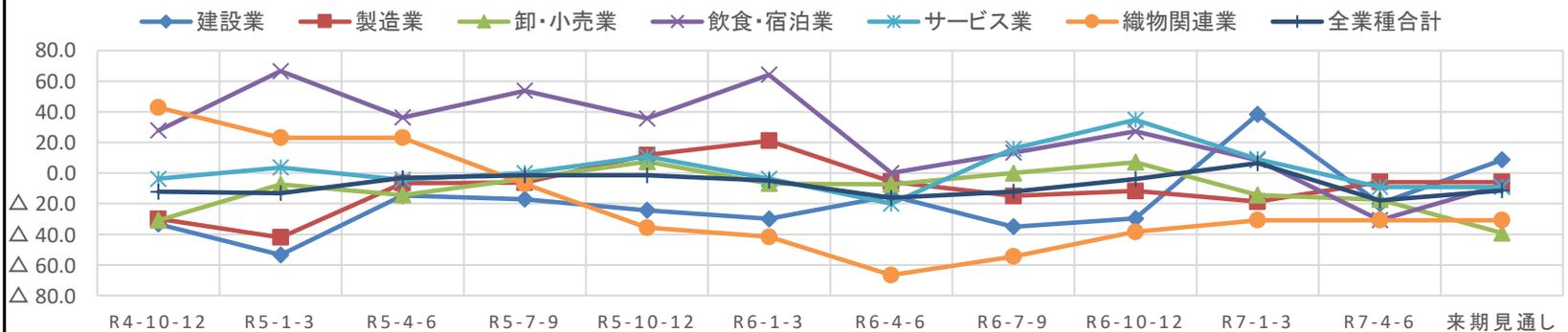


<コメント>十日町市内全体の今期の売上状況は、全業種DI値で△19.9ポイントで、前回調査時よりも18.6ポイント減少した。特に建設業で大幅な減少となっている。来期については、建設業及び飲食・宿泊業において増加が見込まれる。

<地区別：会議所地区>



業種別売上の推移（地区別）

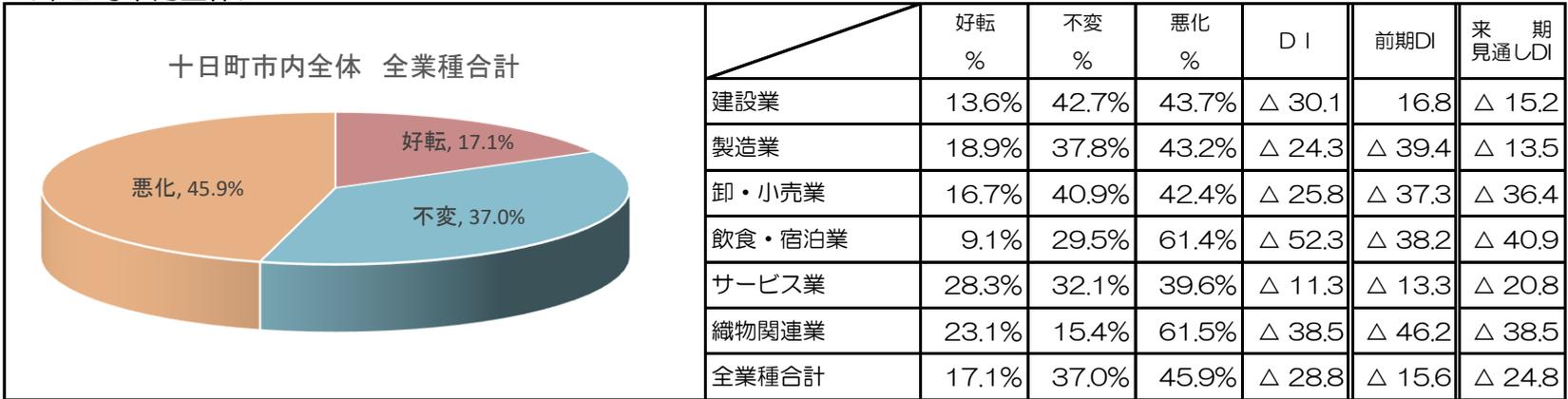


<コメント>会議所地区の今期の売上状況は、全業種DI値が△17.9ポイントで、前回調査時よりも24.4ポイント悪化した。業種別にみると、製造業は改善、織物関連業は横ばいだが、建設業や飲食・宿泊業をはじめとするその他の業種は悪化した。来期見通しでは、建設業、飲食・宿泊業で改善が見込まれるものの、全業種DI値では依然として減少の見通しである。

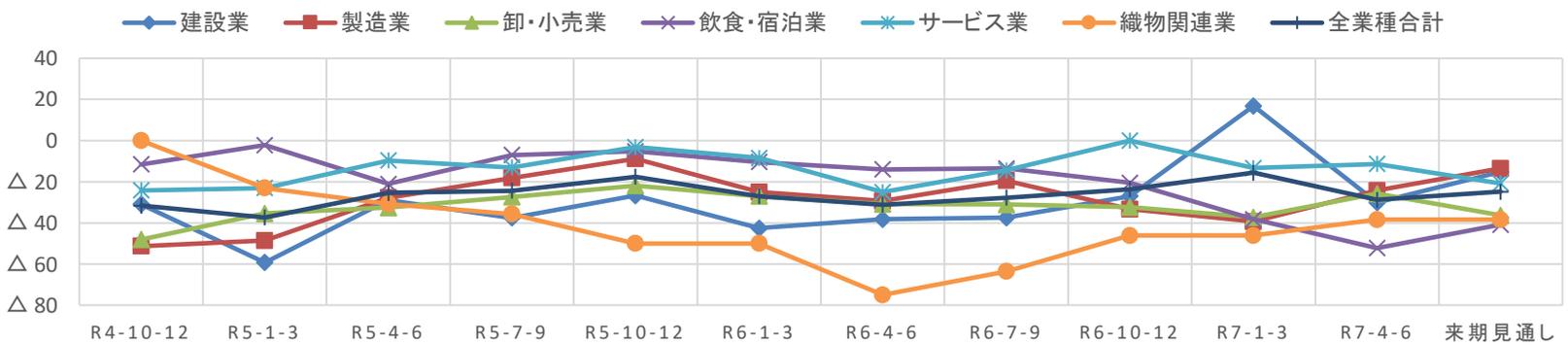
2. 採算について

・4月～6月の採算は前年の同期に比べてどうですか？

<十日町市内全体>

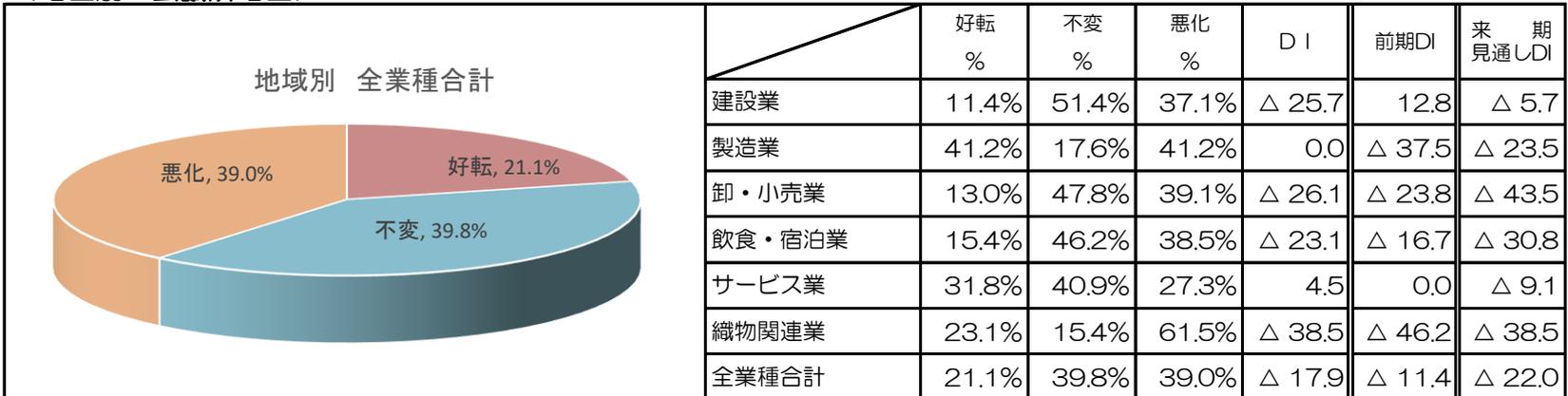


業種別採算の推移(市内全体)

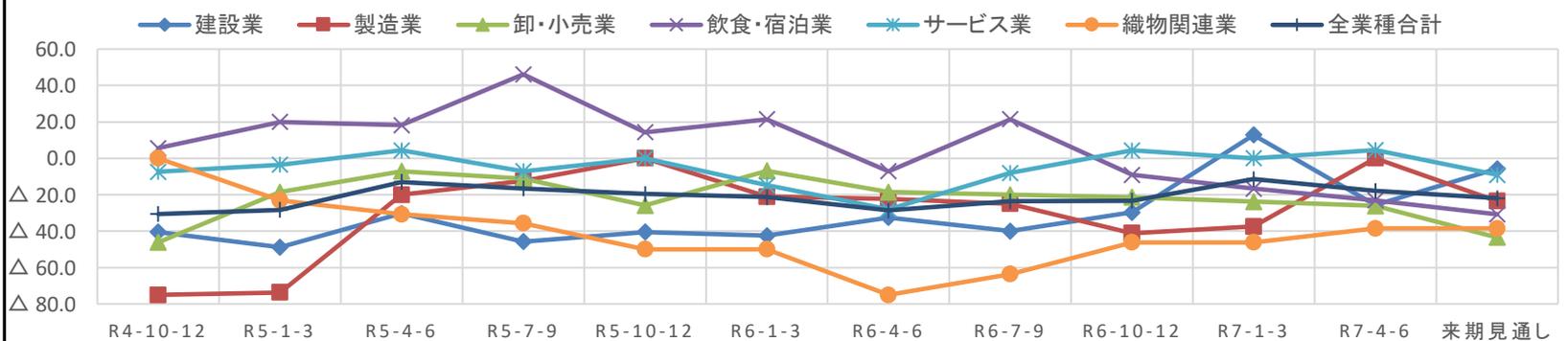


<コメント>十日町市内の今期の採算状況は、全業種DI値で△28.8ポイントで、前回調査時よりも13.2ポイント減少した。業種別に見ると、製造業、卸・小売業、サービス業でDI値が好転している。来期の見通しについては、卸・小売業、サービス業以外の業種で好転の見通しである。

<地区別：会議所地区>



業種別採算の推移(地区別)

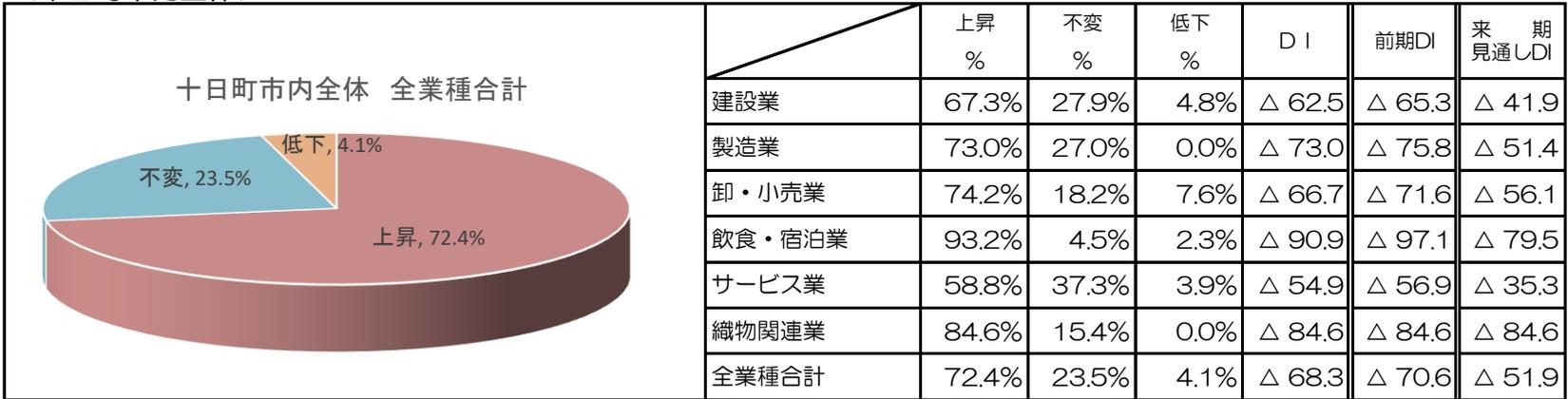


<コメント>会議所地区の今期の採算状況は、全業種DI値が△17.9ポイントで、前回調査時よりも6.5ポイント悪化した。業種別にみると、製造業、サービス業、織物関連業が好転した一方で、建設業、卸・小売業、飲食・宿泊業は悪化となった。来期見通しでは、建設業で好転が見込まれるものの、その他の多くの業種が悪化する見通しであり、全業種DI値においても悪化が予測される。

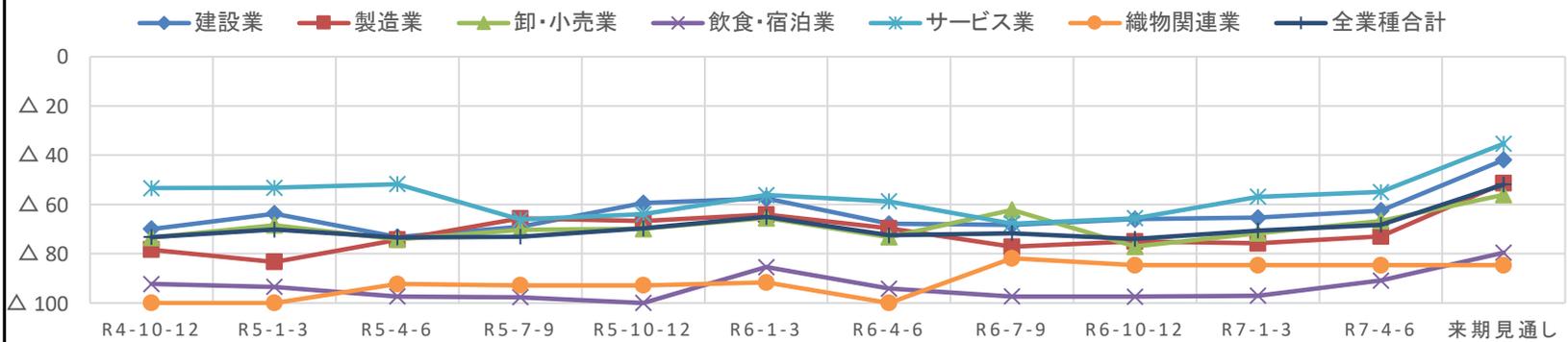
3. 仕入単価について

・4月～6月の仕入単価は前年の同期に比べてどうですか？

<十日町市内全体>

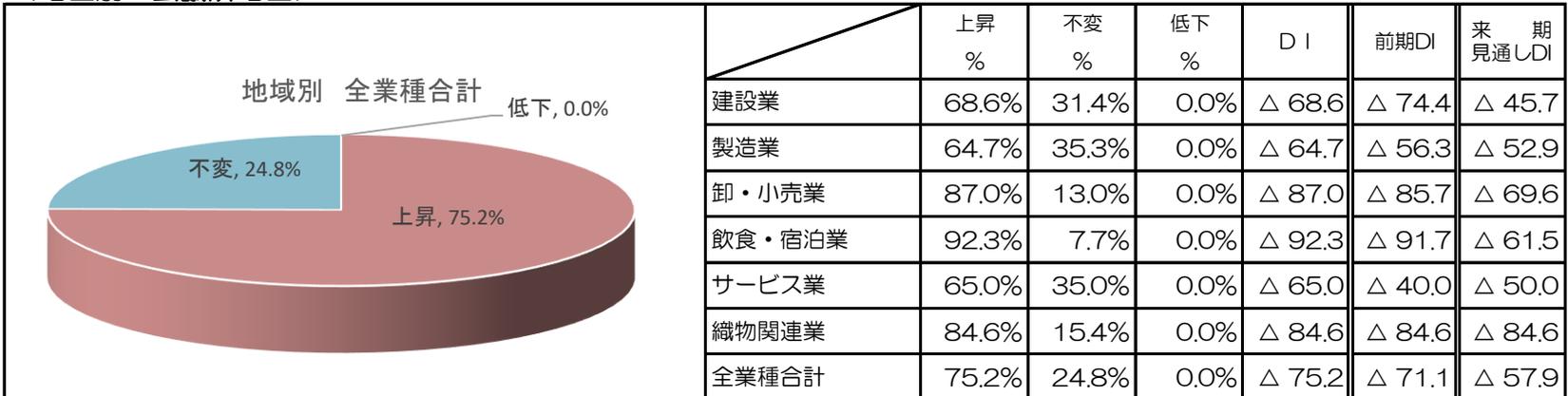


業種別仕入単価の推移(市内全体)

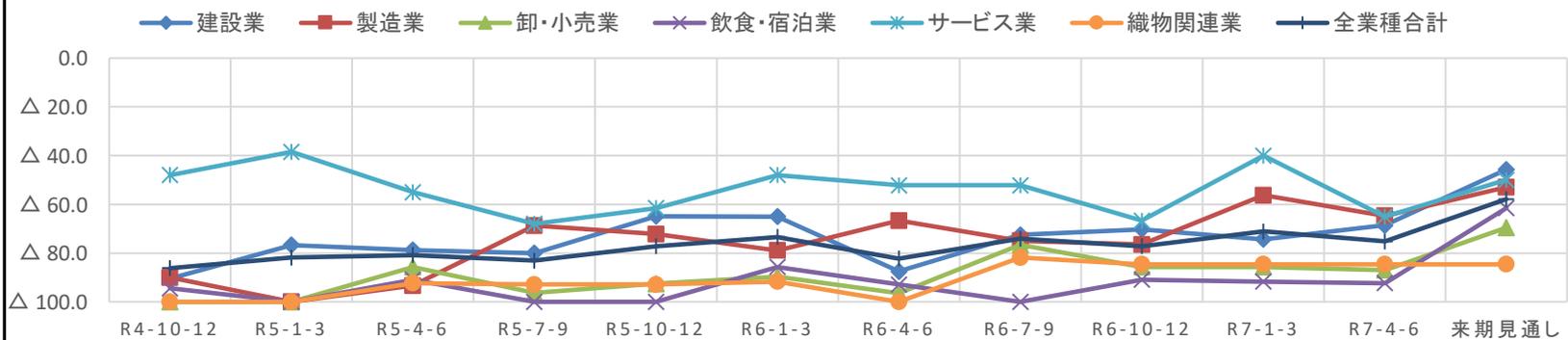


<コメント>十日町市内全体の今期の仕入単価状況は、全業種DI値でほぼ横這いの△68.3ポイントと仕入単価は依然高い状況が続いている。来期見通しは、全業種で今期よりも改善する見込みであるが今後注視していく。

<地区別：会議所地区>



業種別仕入単価の推移(地区別)

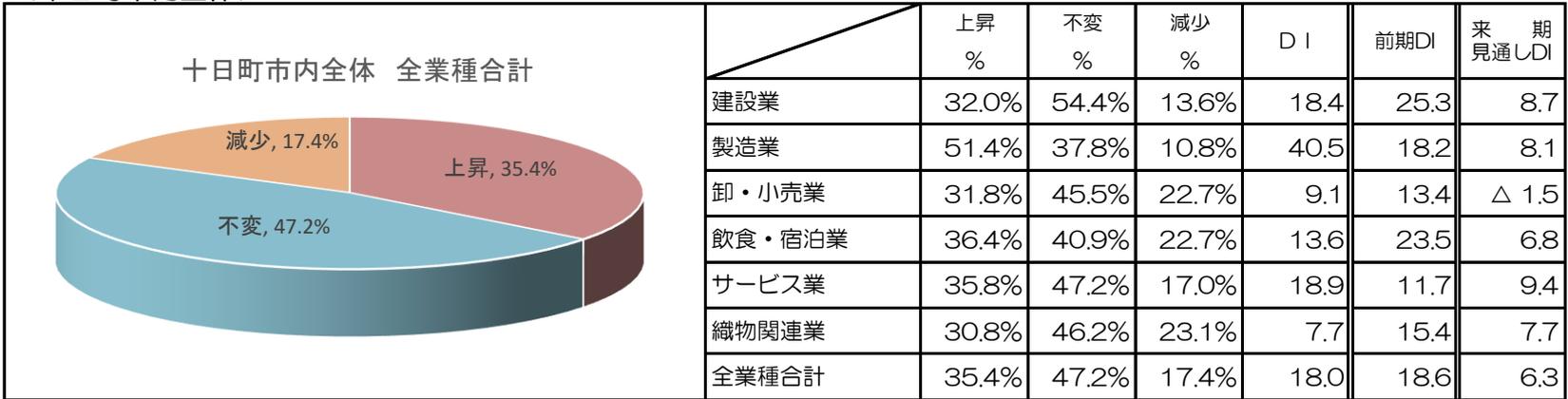


<コメント>会議所地区の今期の仕入単価状況は、全業種DI値が△75.2ポイントとなり仕入単価の上昇が続いている。前回調査時よりも4.1ポイント仕入単価上昇となった。業種別では、建設業で上昇幅が縮小したものの、製造業、サービス業などで拡大した。来期見通しでは、織物関連業を除く全業種で上昇幅が縮小する予測となっており、改善が見込まれる。

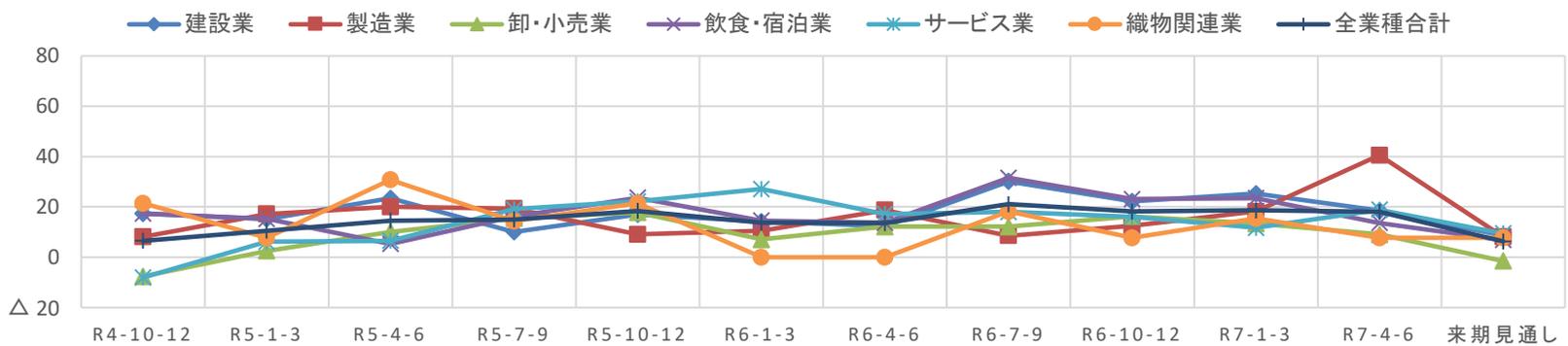
4. 販売（客）単価について

・4月～6月の販売（客）単価は前年の同期に比べてどうですか？

<十日町市内全体>

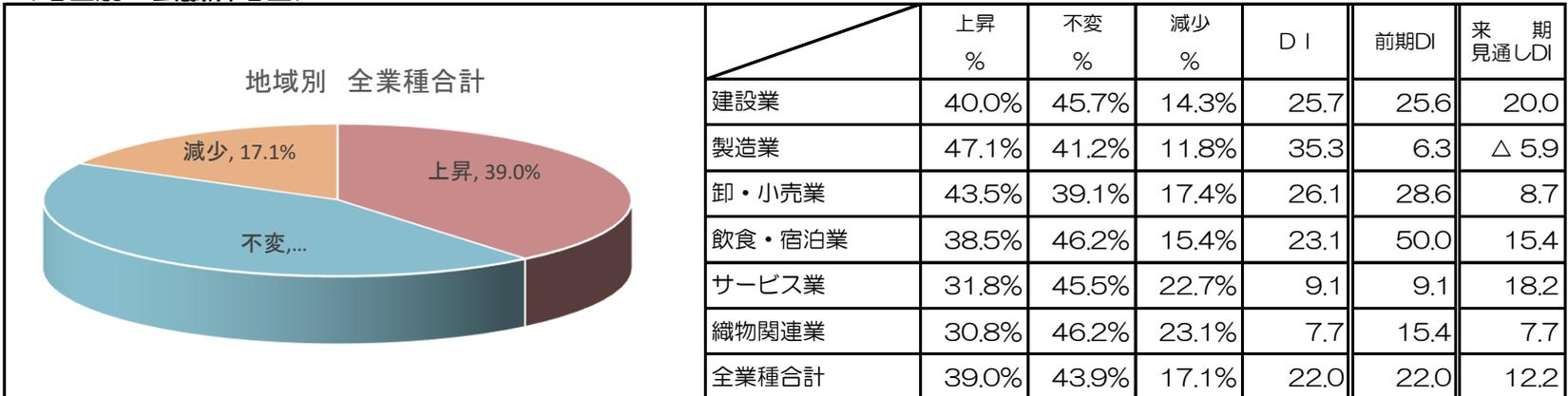


業種別販売（客）単価の推移（市内全体）

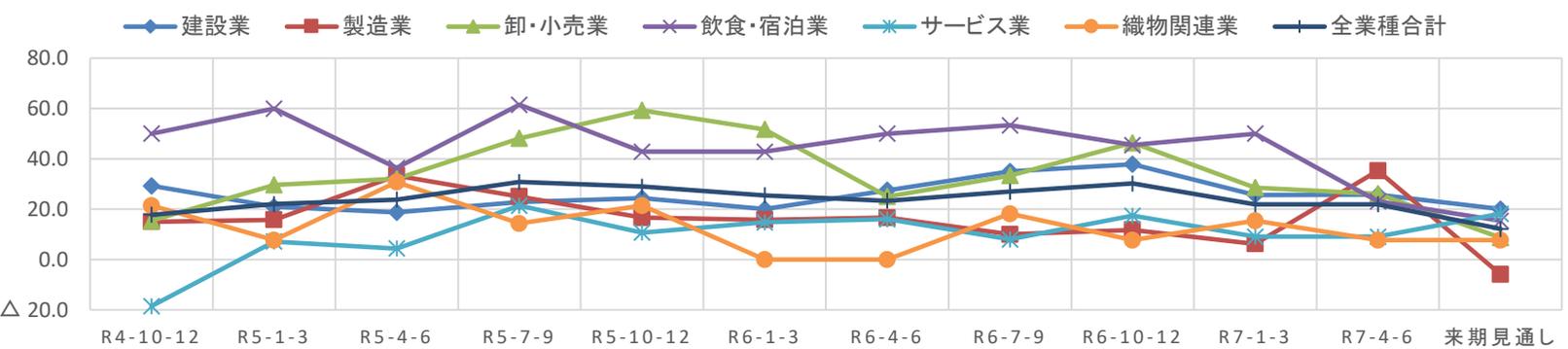


<コメント>十日町市内全体の今期の販売（客）単価の状況は、全業種DI値で18.0ポイントで、前回調査時よりも0.6ポイント減少した。製造業とサービス業で上昇した。来期の見通しについては卸・小売業では減少し、それ以外の業種では上昇する見込みである。

<地区別：会議所地区>



業種別販売（客）単価の推移（地区別）

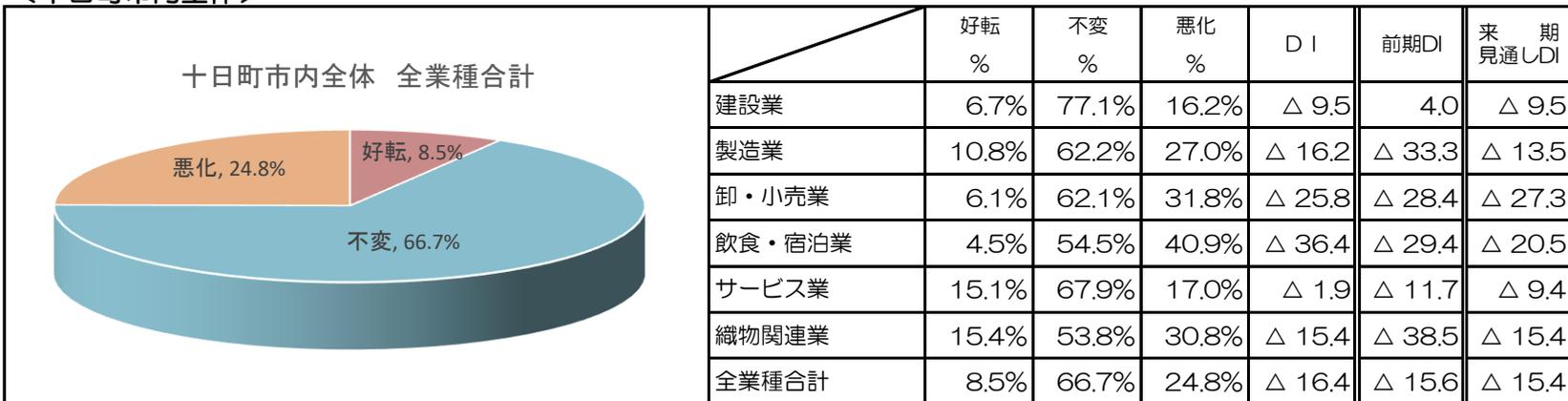


<コメント>会議所地区の今期の販売（客）単価状況は、全業種DI値が22.0ポイントで、前回調査時から横ばいとなった。業種別にみると、製造業が大きく好転した一方、飲食・宿泊業が悪化するなど、動向が分かれた。来期見通しでは、サービス業、織物関連業を除く、すべての業種で悪化が予測されており、全業種DI値においても悪化の見通しである。

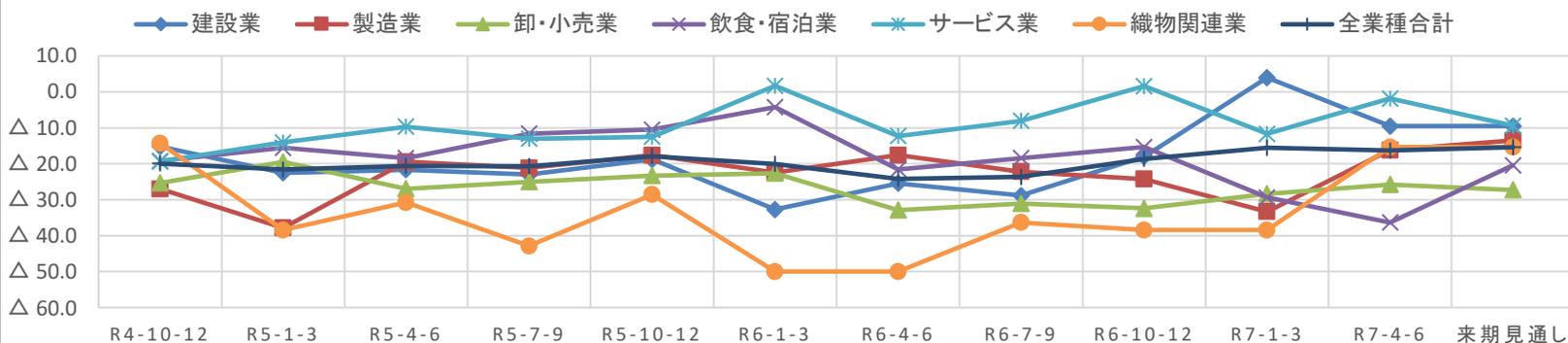
5. 資金繰りについて

・4月～6月の資金繰りは前年の同期に比べてどうですか？

<十日町市内全体>

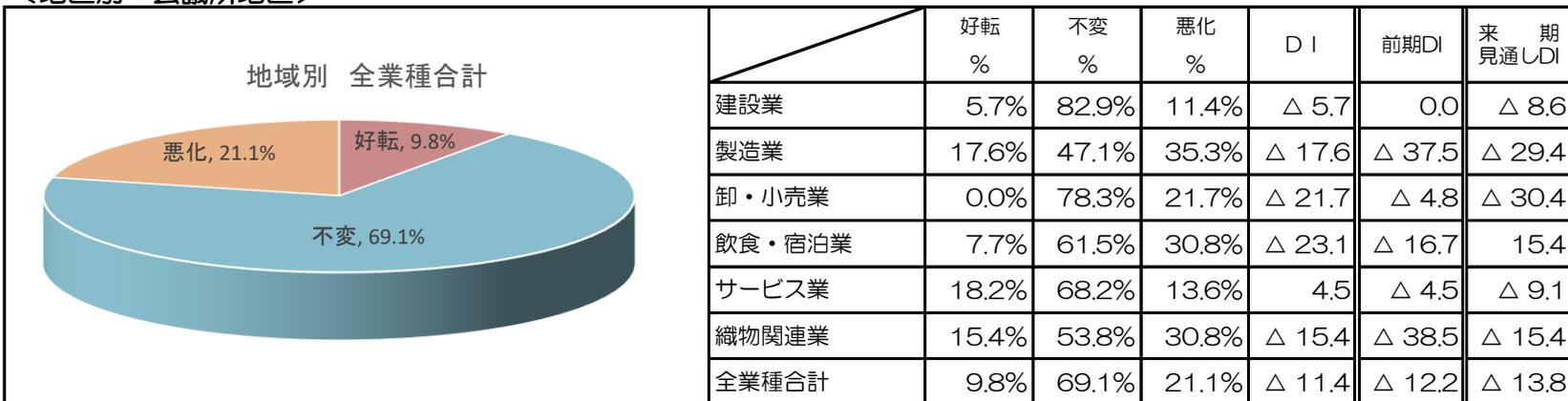


業種別資金繰りの推移(市内全体)

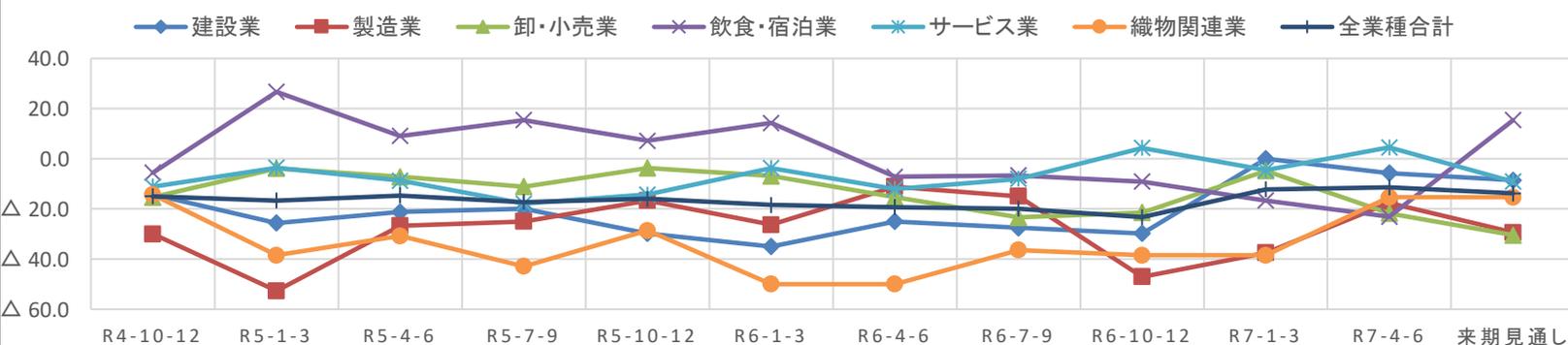


<コメント>十日町市内全体の今期の資金繰り状況は、全業種DI値で△16.4ポイントで、前回調査時よりも0.8ポイント減少した。業種別に見ると、建設業、飲食・宿泊業で悪化となった。来期の見通しについては、建設業では横這い、製造業、卸・小売業、サービス業では悪化、飲食・宿泊業では好転の見通しとなる。

<地区別：会議所地区>



業種別資金繰りの推移(地区別)

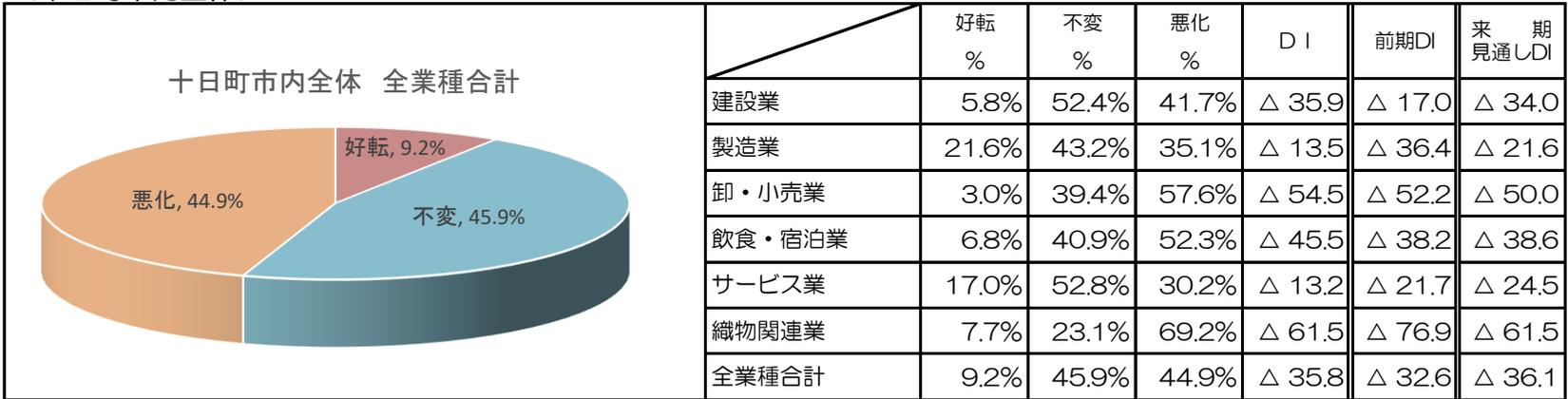


<コメント>会議所地区の今期の資金繰り状況は、全業種DI値が△11.4ポイントで、前回調査時よりも0.8ポイントとわずかに好転した。業種別では、製造業や織物関連業などで好転が見られたものの、建設業や卸・小売業などでは悪化となった。来期見通しは、飲食・宿泊業で大幅な好転が予測される一方で、他の多くの業種で悪化が見込まれ、全業種DI値においても悪化予想となっている。

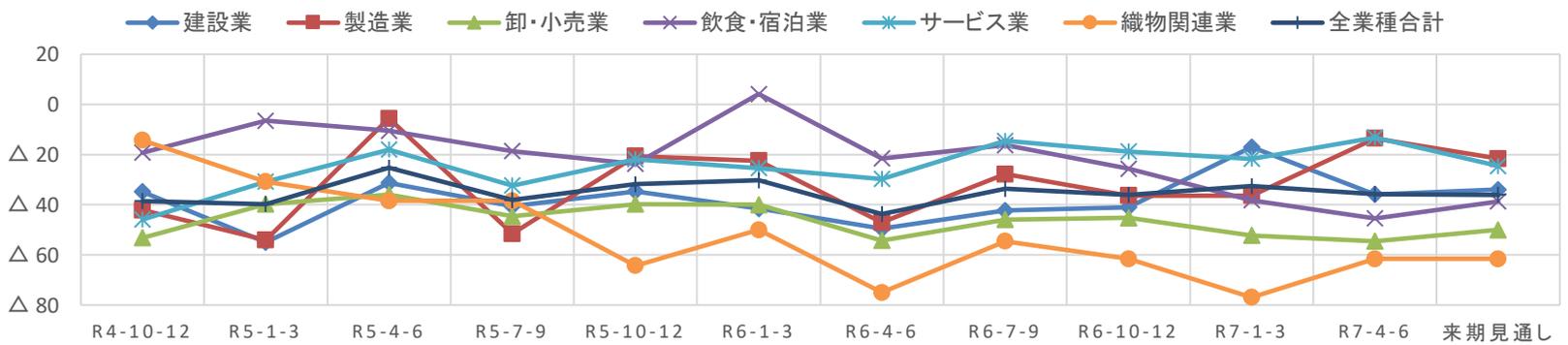
6. 景況判断について

・4月～6月の景況は前年の同期に比べてどうですか？

<十日町市内全体>

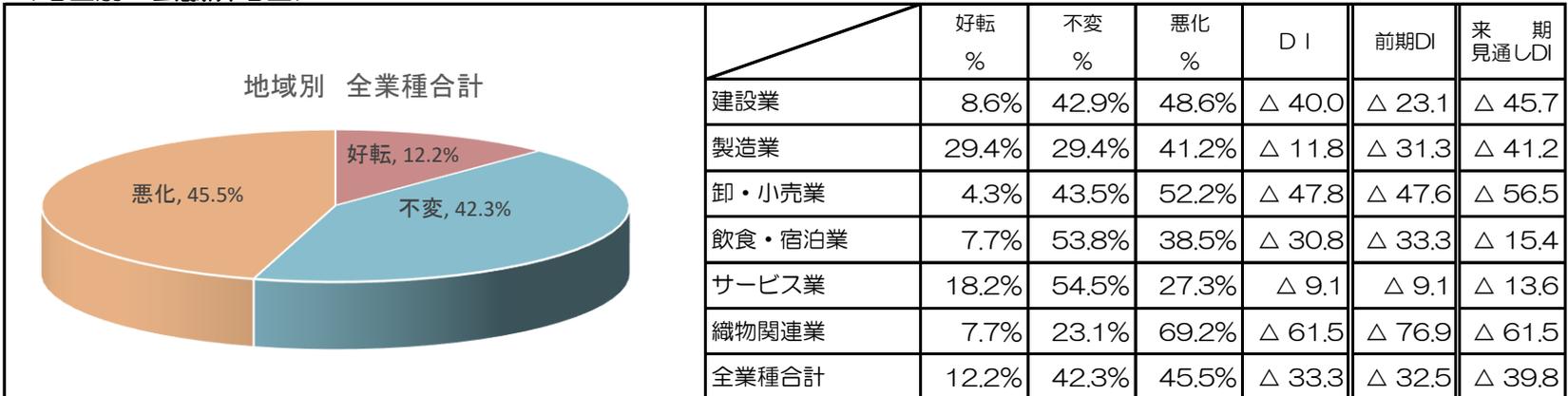


業種別景況判断の推移(市内全体)

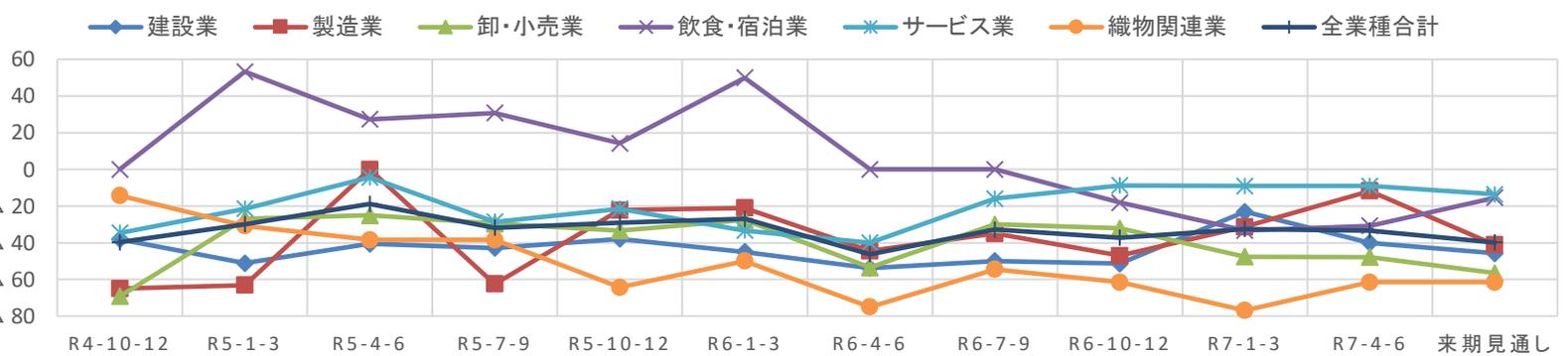


<コメント>十日町市内の今期の景況判断は、全業種DI値で△35.8ポイントで、前回調査時よりも3.2ポイント減少している。製造業、サービス業以外の業種で悪化となった。来期見通しは、製造業、サービス業で悪化、それ以外の業種で好転する見通しである。

<地区別：会議所地区>



業種別景況判断の推移(地区別)

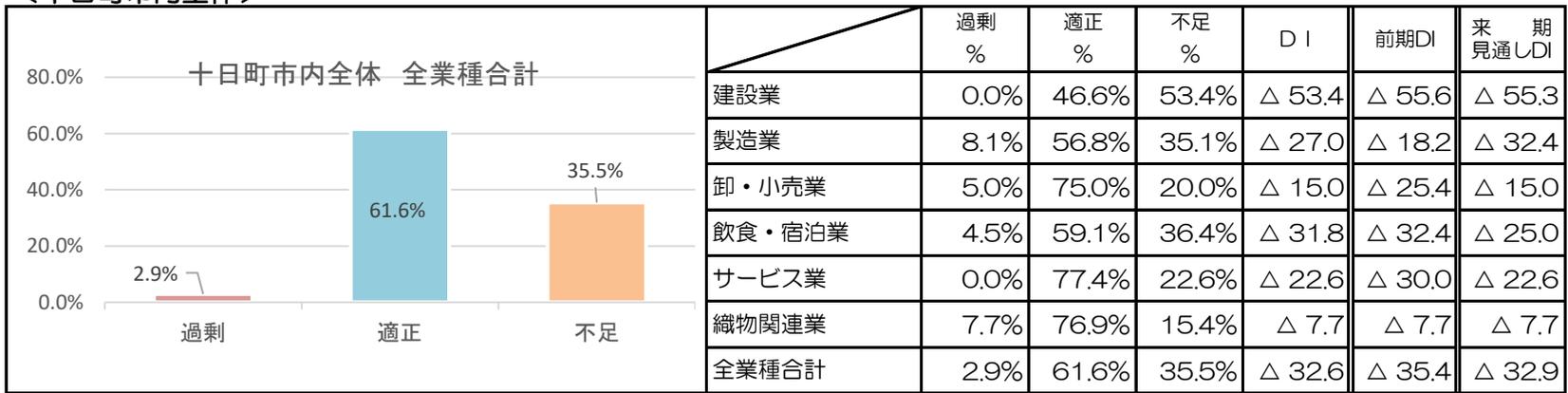


<コメント>会議所地区の今期の景況判断は、全業種DI値が△33.3ポイントで、前回調査時より0.8ポイント悪化し、ほぼ横ばいとなった。業種別にみると、製造業や飲食・宿泊業などが好転した一方、建設業は悪化した。来期見通しでは、飲食・宿泊業で好転が見込まれるものの、織物関連業を除くすべての業種が悪化予測となり、全業種DI値においても悪化の見通しとなった。

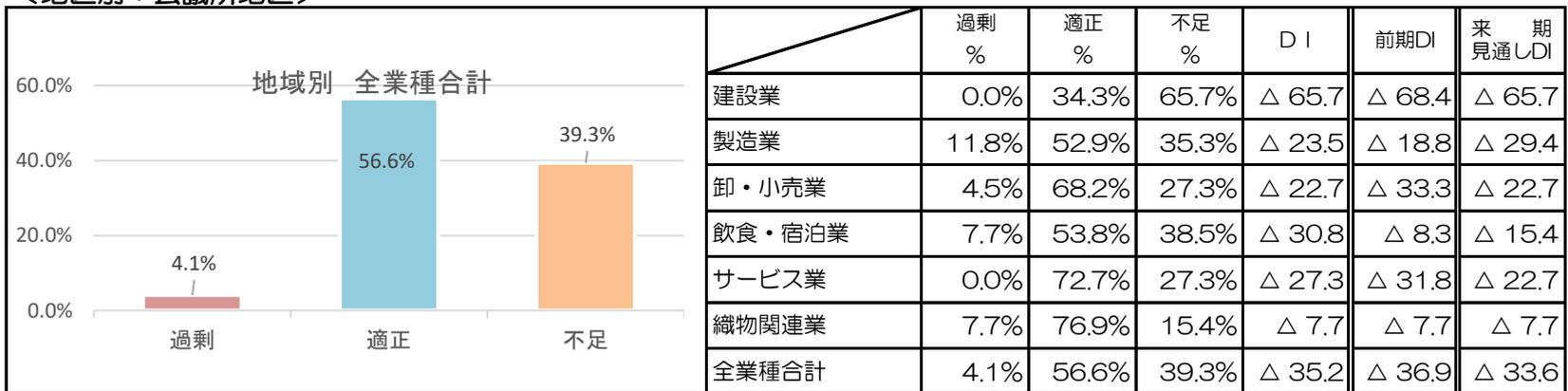
7. 従業員数について

・4月～6月の従業員数は前年の同期に比べてどうですか？

<十日町市内全体>



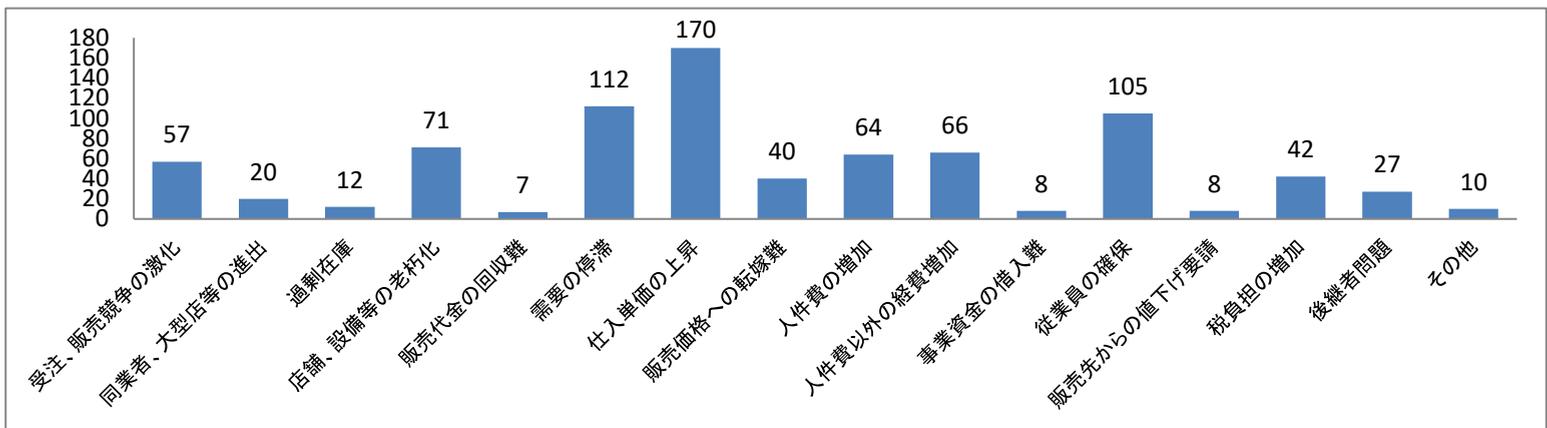
<地区別：会議所地区>



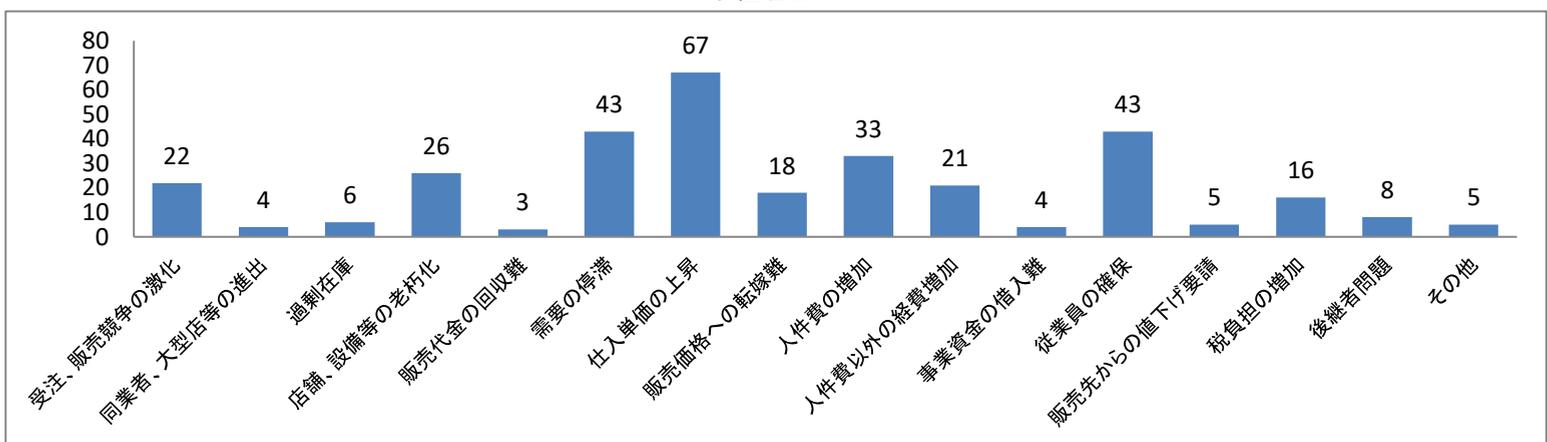
<コメント>十日町市内全体の今期の従業員数（雇用動向）は、全業種DI値で△32.6で前回調査時よりも2.8ポイント上昇となった。来期の見通しは建設業、製造業で減少、卸・小売業、サービス業で横這い、飲食・宿泊業で上昇となった。会議所地区の従業員数（雇用動向）は、全業種DI値が△35.2ポイントとなり、前回調査時より1.6ポイント上昇となったが、依然として人手不足が続いている。業種別では、建設業や卸・小売業で不足感が緩和された一方、製造業や飲食・宿泊業では不足感が強まった。来期は、全体として不足状況は継続する見通しとなった。

8. 経営上の問題点（上位3つ）：4月～6月

十日町市内全体 全業種合計



全業種合計



<コメント>今回調査での経営上の問題点は、1位「仕入単価の上昇」、2位「需要の停滞」、3位「従業員の確保」となり、前回調査と比較して順位の変動はあるものの、1位の項目に変化はなかった。会議所地区の経営上の問題は、1位「仕入単価の上昇」、ついで「需要の停滞」、「従業員の確保」となった。

9. 地区の景況概要

・4月～6月時点での全体概況は

【建設業】

深刻な人手不足が最大の経営課題となっており、事業継続や拡大の制約要因となっている状況がうかがえる。次いで「需要の停滞」も挙げられており、受注環境への懸念も大きい。前期においても「従業員の確保」は最重要課題であり、人材不足の問題が根強く残っている。経営上の問題点は「従業員の確保」、「需要の停滞」、「受注・販売競争の激化」が多く回答されている。

【製造業】

原材料やエネルギー価格の高騰が引き続き経営を圧迫していると考えられる。前期に問題視されていた「仕入単価の上昇」が今期も最も大きな課題となっており、コスト管理が重要性を増している。また、「需要の停滞」や「人件費の増加」、「販売価格への転嫁難」なども問題視されており、厳しい経営環境が続いていることが推測される。経営上の問題点は「仕入単価の上昇」、「需要の停滞」、「人件費の増加」、「販売価格への転嫁難」が多く回答されている。

【卸・小売業】

「仕入単価の上昇」が突出して大きな課題となっており、コスト増加分を販売価格へ十分に転嫁できず、利益が圧迫されている状況が推測される。前期と同様に、コストプッシュが経営上の最大の懸念事項である。さらに、「需要の停滞」や「人件費の増加」も課題となっており、多角的な経営努力が求められている。経営上の問題点は「仕入単価の上昇」、「需要の停滞」、「人件費の増加」、「受注・販売競争の激化」が多く回答されている。

【飲食・宿泊業】

「仕入単価の上昇」と「人件費の増加」が二大経営課題となっており、コスト面での圧迫が非常に強いことがうかがえる。これらの課題は前期から継続しており、収益確保が難しい状況が続いていると考えられる。また、「需要の停滞」も課題として挙げられており、集客面でのこ入れも必要とされている。経営上の問題点は「仕入単価の上昇」、「人件費の増加」、「需要の停滞」が多く回答されている。

【サービス業】

「需要の停滞」が最大の課題として認識されており、顧客の獲得や利用促進に苦慮している状況がうかがえる。前期はコスト面（販売価格への転嫁難、仕入単価の上昇）が主な課題であったが、今期は需要面に課題の中心が移っている可能性がある。また、「従業員の確保」や「人件費の増加」といった人材関連の課題も重要度を増している。経営上の問題点は「需要の停滞」、「従業員の確保」、「人件費の増加」が多く回答されている。

【織物関連業】

売上・採算・景況のすべてが低迷し、厳しい状況が続いている。仕入単価は高止まりしており、販売単価の上昇で吸収できていない。雇用面では、従業員数の不足感は限定的で比較的安定している。経営上の問題点は、「需要の停滞」と「仕入単価の上昇」が同数で最も多く挙げられている。